

## 現在の我國の狀態と吾が希望

中一 富田海音

世界の戰雲は一轉して、東洋の天地を掩い、延いては帝國の危機に迫るより、國防上我が陸海軍は、或は北滿洲に、或は西比利亞に、或は同海岸に國際同盟の上より帥を進め、常に攻勢にありて向ふ所優勝の効果を修め、益々國勢伸暢せんとしつゝあり。

國內の現狀は如何にご案ずるに、實生活窮乏を叫び、救を得んと民衆の集まりしもあり、又此の窮乏を扶けんが爲め、諸所に救濟の方法を講ずるもありて、政治上及財政上に種々の錯綜せる問題横たはり居るを觀る。

斯くて國の富強を計らんには、兵力と經濟力とに相俟たざるべからず、又國威を益々發揚し、國勢の發展を企圖せんには、國民悉く一致して君國の爲め力めざるべからず。

彼の獨逸が世界大國を相手取り、五ヶ年に亘り

たく戰鬪を續け、敵を惱すは彼の國民老若男女一致して自國の爲め各其の職務に熱精なる結果に外ならざらん、若し彼れが我利主義なる國民なりとせば、到庭今日迄連戰する事能はざらん、之れ一に舉國一致して愛國精神のこもりたる結果に外ならざるべし。

思ふに、昨今國民を代表し遠く西比利亞方面に身命を的に敵を壓倒し、我國の武力を益々世界に光揚せしめんとするに、國內米價騒動の起りしが如きは窮乏に起因せしとは云へ、國家の爲め實に遺憾に堪えざる所あり。茲に於て吾々國民たるもの將た又宗教家たるもの國內狀態を觀察し、國家對世界の大勢を察し、如何なる觀念を爲すべきか如何なる事に力むべきか。

要するに、帝國々民たるものは消極的我利的なる迷信を斥け、一致して積極的愛國主義に基き、健全なる理想の下に、各其の天職に従ひ、殉國的意識を明かにし、健全なる思想上の力を海外に伸ばし、宗祖日蓮大上人の精神的帝國主義を叫び。

『一天四海皆歸妙法』の理想を奉じて、他國民をも指導し、閻浮第一の大願を成就せん事に勉めざるべからず。



## 編輯の後に

人の生活は、その内面にも亦外面に於ても、其人の環境や、その社會の傳統的の種々相に影響されて、人格そのものゝ上に種々の相異した結果を齎すこと、それは免れ難き事實である。又複雑した精神生活の内容を有つ所から、そうした感受性に富む人と乏しい人、そうした外界に對する服従性、妥協性の多い人、少い人等と、限り無く多くの階級を認め得る。

思想界の變潮も、政体に對する變革も、制度習慣の更展も、乃至は信仰界の覺醒運動等も、皆悉く斯うした事實の發現に他ならぬ。於此有する社會の指導者、先覺者は自分の率ゆる民衆に對して

先憂後樂の責任ある理解者であらねばならぬことは言ふ迄も無い。

何處の國へ旅しても、何處の家庭を眺めて見ても、老若の人々が互に無理解と、頑固と、我儘に色々の貌を執つて諍ふて居るのを看る。此の事は直に社會の改造と思想界の變潮とを物語るものである。而も是等の實際が任運的に極く順調に進んで往く事もあつたが、現在及將來には、少くとも我々の文化史が過去に有つ巴上の激越な調子を探るべきは、火を燎るより明がである。或人が言ふた様に輿論は愚論であるかも知れぬ。然し現在人の生活の事實が上下を擧げて、輿論の勢力で抱擁する迄に悲惨に成つて來た。個人の智識開發にのみ偏重して施して來た教育の効果が、斯ふした一種の民本的成果を結んで來たのが現代思想界の事實である。

數年に涉つて善に又惡に、色々の結果に世界全体の國家民衆に覺醒と波動とを與へた歐洲の大亂は、遂に歐洲のみに止まらず、我々の社會にも又